

島嶼学特論レポート

農学研究科 熱帯作物学研究室 修士1年 3416810071 小森健太

今回、この講義で三島村に訪問した際に、島ならではの生活や三島村独特の文化、島の人々など、自分の目と肌で体験してきた。島への訪問は人生で2回目なのだが、1回目は最近種子島に唐辛子の栽培で訪れたのですが、その時は、ちゃんとした島の人との交流や文化体験などがなく、今回の三島村が初のようなものである。そこでこのレポートでは、色々な意見を書いていくが、多角的な視野からみたものではないことを先に述べておく。

まず、三島村は3つの島々から成り立っており、その中の硫黄島は鹿児島県本土から南へ108kmの海上にある小さな火山島である。主なアクセス方法は定期船「みしま」であり、鹿児島港から約4時間を要する。人口は三島村で380人程であり、鹿児島にある28もの離島で下から5番目であるようだ。主な産業は繁殖牛の子牛生産を行う畜産業、竹林で覆われているためその資源を利用したタケノコ生産や加工、竹林に次ぐ面積を占める椿林からの実を絞って作る椿油を中心とした林業、セエビ漁を中心とする漁業である。一方では、主峰の硫黄岳からの亜硫酸ガスによってほとんどの栽培が困難とされていた。野菜の供給については本土からのフェリーでの輸送にほとんど頼っている現状であった。

ここで農業をするうえで、色んな作物を育てることが難しいのはやはり硫黄島の活火山による酸性の土壌や酸性雨、火山ガスが大きな原因になっていると考えられる。今回の研修では農業に関わる仕事をなされている方と交流することが出来なかったため島での農業の実態や問題点の生の声を聞くことは出来なかった。だが、間接的にであるが、三島村役場の方々から話を聞くことができたのだが、やはり、昔ほど栽培もしていないいうえに、昔から自給自足程度の量しか栽培していないようだ。

こういった話を聞いて、今後の課題の根本的な部分として一番収入に関してすごく不安に思えた。正直なところ農業も島の人々のためのもではなく、特産品としてのものが多く、しかも農業に適さない環境であり、本土からも遠い。ゆえに船で輸入せざる環境ゆえに若者も少なくなっている。実際、硫黄島では移住すると、50万円または子牛一頭のキャンペーンを行って、島の人口増加を図っているものの、人口が増えない。また島の特産といえば椿でありながら自然をまわるツアーが確立されていないことや渡航が大変なので観光客数も減っていることが問題である。

もし観光でもっと収益を伸ばして島の活性を行うのであればもっと改善点があると思えたのでそれを提示していこうと思う。

まず、観光を盛り立てていくにしても、食料の安定的な供給がまず必要なのではないかと考えられる。そこで一番重要なのが炭水化物のもととなる作物の栽培だと思う。確かに酸性土壌下ではアジアイネなどは難しいかもしれない。だがこの島には独特のつながりが存在するのではないか。ジャンベというアフリカの打楽器である。せっかくアフリカとのつながりがあるのに音楽だけというのは何か寂しい気がする。実際アフリカの中でも酸性土壌持つところが存在する。大地溝帯周辺部がそれで、コンゴ、ルワンダ。ウガンダ、ケニアといった国々が挙げられる。それらの国々が栽培しているヤムイモなどを植えてみると良いのではないか。これによって三島村とアフリカの更なる関係や食料の確保、また新しい産物の確立にもなると思う、しかし、やはり農作物を三島村でもっと問題になるのが火山ガスだと思われる。これに対してはハウスを建てて行うしかないと思う。初期投資の面に関してははっきりとわからないので良く言えないが、もし建てられるなら、ハウスに用いる材料としてはマグネシウムのもが良いと思われる。なぜなら、酸化しにくいからだ。硫黄島では多くの鉄のものが酸化していたり、すでに腐食していたものがたくさんあったのを目の当たりにした。これによって栽培方法と食料の確保につながると考えた。ただ初期費用が高いと思うので、アフリカの国々との共同プロジェクトみたいな形で県や国に申請して援助金をだしてもらえないかもしれない。また、島というのは大陸部のものより単純な形態系であり、品種にも大きな違いが存在しないと講義で学んだ、そこで、もし何かの病気で全滅してしまわないためにも、既に栽培出来ている椿や竹などを島外から他の品種を持ち込み遺伝的に多様な状態にしておくのが良いと思われる。

一方で観光の面では、面白い取り組みがなされていてその中でも特に三島村では、研究者から得られた知見や環境条件を生かし、「地球と遊ぶ・学ぶ・稼ぐ」をコンセプトとしたジオパークが設計されつつある。科学的にみて重要また美しい地質遺産を持つ硫黄島に新たな観光名所ができようとしている。実際に現地で大岩根さんに地層の話や島の歴史的な物語などをして頂いたが、理系文系問わずみんなに分かりやすいものであった上に、知っているのと知らない上での観光の仕方に大きな違いが生じると思える内容で非常に良かった。しかし、もし大岩根さんが不在の時やどうしても観光ツアーガイドに同行出来ない時にツアー参加者が同じ観光スポットに行って、みんな楽しんだり学んだり出来るのだろうかと思った。やはり、他のジオパークのメンバーにも同じことが出来るぐらいの知識の共有やそれぞれの観光スポットに目印や説明の看板、そして地図などを配置した方がより良いのではないのだろうか。せっかくの温泉スポットや絶景スポット、地形の勉強などが微妙なもので終わってしまうのがもったいないと思った。また、観光客を増やす上で食料の面の問題は先ほど挙げた

が、今度は受け入れる旅館などの数である。現在、研究者や地熱発電開発の方々がよく来られると思うので、同じ時期に一度に泊まれる観光客の人数がそんなに多くないと思う。やはり、観光でこの島を推して行く場合、島での受け入れる体制がもっとしっかりしていないと思った。

また硫黄島には昔ホテルがあったが、潰れて今はキャンプ場になっているところがあった。しかし、なかなか使われていないということを聞いてもったいないと思った。こんな自然にあふれ、野生の孔雀がおり、温泉も湧いているという場所なら、若者たちなら夏にキャンプや BBQ が出来ると思うし、鹿児島本土の小中学生には良い社会見学の場にもなると思う。また、夏休み中の子供たちを自然学校のような形で誘致すれば、島の子供達とも交流が図れ、島にも興味委が出ると思う。また、ここで本土に留学中のアフリカの方々を招いて、英語学習・国際交流を実施したり、夜はキャンプファイヤーを囲みながら子供達でジャンベの演奏会などをすることで、子供達同士が打ち解けやすくなるのではないかな。音楽に言葉は不要であり、国境を越えた交流が可能なため、ジャンベを通してコミュニケーションも図れるのも一つのポイントだと思う

最後にジオパークの今後の要になるであろう地熱発電に関することである。これ自体すごくいいアイデアであるが、途中で計画が止まっているのが残念である。この地熱発電が完成しを上手く使えば、北海道のようにビニルハウスなどに熱の応用も出来るし、電気を島内で発電出来るようになる。これにより、本土から燃料を買わなくて済むようになると思う。またトヨタさんとの地熱&水素プラントの資料を読んだ時に、CO₂を 99 パーセントカット出来るというのを見て、世界のエネルギー事情を鹿児島から変えるきっかけになったら凄いことだなあと本当に興味があって読ませて頂きました。

今回の研修では大岩根さんをはじめ三島村役場のみなさんやジャンベスクールの皆さんには大変お世話になりました。すごくいい経験になったのでまた機会があれば訪れたいと思います。ありがとうございました。